



お茶の水女子大学 社会人プログラム 変革期の乳幼児教育・ 保育を考える

平成 25 年度 前学期

〔開講科目・開講曜日〕

実践音楽療法

(火曜日) 2 単位 担当: 下川英子

乳幼児教育・保育政策論 I

(水曜日) 2 単位 担当: 逆井直紀

現代保育課題研究 V

(木曜日) 1 単位 担当: 榊原洋一、浜口順子他

保育メディア論

(夏期集中 8/7, 8, 9 各日 9:00-18:10) 2 単位
担当: 一色伸夫、坂上浩子

子ども家庭支援相談 I

(夏期集中 8/10 9:00-16:30, 8/11 9:00-15:45)
1 単位 担当: 安治陽子

■ 受講生は、お茶の水女子大学科目等履修生として登録され、どの科目も授業回数の 3 分の 2 以上出席する他、一定の条件を満たした場合には、単位が認定されます。

■ **男性も受講可能**です。

■ 開講時間: 18:20~19:50

(2 単位: 15 コマ、1 単位: 7.5 コマ)

■ 納付金:

検定料 9,800 円

入学科 28,200 円 (継続の場合、3 年間有効)

授業料 14,400 円 (1 単位につき)

※本学卒業生・修了生は、入学科が無料となります。

**詳しくは、お茶の水女子大学 ECCELL ホームページ
をご覧ください。**

⇒ <http://www.cf.ocha.ac.jp/nyuyoji>

応募期間

平成 25 年 2 月 21 日 (木) ~ 3 月 1 日 (金) (※消印有効)

応募方法

出願要項・入学願書をお茶の水女子大学ホームページからダウンロードしてください (大学教務窓口に直接請求することもできます)。

出願に必要な書類を整えた後、下記送付先までご郵送ください。

⇒ **お茶の水女子大学ホームページ**: <http://www.ocha.ac.jp/>

〔願書送付先〕

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 教務チーム (電話: 03-5978-2722)

〔問い合わせ先〕

お茶の水女子大学 ECCELL 社会人プログラム

電話: 03-5978-5949 E-mail: nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp

平成25年度 前学期 開講科目

■実践音楽療法（火曜日）

下川 英子（埼玉療育園 音楽療法士）

子どもの音楽療法の視点から音楽の広がりを考え、コミュニケーションや自己表現を大切にする音楽活動を保育や統合保育、特別支援教育に生かすことを目的とします。能動的音楽療法は子どもの発するものを大切にして、表現や他者とのコミュニケーションを深め、色々な問題の改善へ向けてゆきます。保育指針にも近似した内容が書かれていますがなぜでしょう。教え込む音楽・そえる音楽ではなく、表現する音楽・仲間とコミュニケーションをとる音楽を、一緒に体験し考えてみましょう。

■乳幼児教育・保育政策論Ⅰ（水曜日）

逆井 直紀（保育研究所 常任理事）

2012年8月、国会で子ども・子育て関連法が成立し、戦後築かれた幼児教育や保育の制度が、大きく切り替えられようとしています。また地域では、子ども数の減少を受けて、幼稚園を中心に保育施設の統廃合がすすんでいます。大都市部では保育所の待機児童問題が深刻化しています。今まさに、日本の幼児教育や保育は転換期にあり、ここ数年で劇的な変化を遂げることになるかと予測されます。

実際に幼稚園・保育所等において日々行われている保育は、政策や制度の影響を大きく受けており、その制度・政策のありようを考えることは、保育実践を主体的に行う上で不可欠な作業といえます。前期授業では、幼稚園・保育所に関わる政策や制度に関わる基礎的・原理的な事項の理解を深めるとともに、戦後を中心にその動向を整理します。また、大震災後の被災地の保育状況など、折々に保育の現状をリアルにとらえられるような情報等を織りこんで、抽象的な学びにならないような工夫をしたいと考えています。

■現代保育課題研究Ⅴ（木曜日）

榊原 洋一（お茶の水女子大学大学院 教授）ほか

本授業では、受講生自身の関心をもとに、乳幼児の保育や教育に関する問題や、保育現場などで直面するさまざまな課題について、各自研究テーマを設定し、ゼミ形式で話し合いながら研究レポートの作成をめざします。たとえば、子どもの発達や育ちと保育の関係、実践現場における子育て支援のあり方、観察記録やカンファレンスの活用、保育環境や表現の問題、海外の保育との比較や保育の歴史など、各自のテーマについて検討を行い、研究を進めていきます。人数が多い場合は、研究テーマによって少人数のグループに分かれ、複数の担当教員とともに考察を深めていきます。隔週木曜日の開講を基本としますが、受講生の予定によって柔軟に日程を組んでおり、個別指導を行うこともあります。学期末に、学習・研究結果をまとめて発表しますが、希望者には日本保育学会などでの発表もサポートします。

■保育メディア論（集中講義：8月7日（水）～9日（金））

一色 伸夫（甲南女子大学人間科学部総合子ども学科 教授）

身の回りに氾濫するテレビ、ビデオ、ゲーム、インターネットなど多様な映像メディアに、子どもたちは大変興味を惹かれます。21世紀の高度情報化社会で、子どもたちが健やかに育つために、子どもとメディアの良い関係を築くための様々な研究や教育に関して論考します。幼児とメディアの関係について、その特徴や制作プロセスの解説を行なうことによって、視聴覚メディアを用いた教育の持つ機能とその役割に関して様々なコンテンツや研究から考察します。

坂上 浩子（NHK編成局ソフト開発センターエグゼクティブ・プロデューサー（教育イベント総合事務局長））

メディア激変期を生きる子どもたちの発達・発育において、メディアに触れる・触れないといったプリミティブな議論ではなく、コンテンツの質とコミュニケーションの関係、そして社会的・歴史的なマクロな視点での議論が、ますます必要となっています。そこで当授業では、具体的な番組やコンテンツを題材として、メディアと子どもの良い関係をつくるための社会的条件について考察を深めます。家庭や保育現場でメディア・リテラシーの土台を如何につくっていくかについて、国内外の乳幼児コンテンツ制作の現状をひも解きながら、望ましいメディアの内容と利用の方法を具体的に考えていきます。

■子ども家庭支援相談Ⅰ（集中講義：8月10日（土）～11日（日））

安治 陽子（お茶の水女子大学人間発達教育研究センター 講師）

子どもと家族は、保育の場と家庭を行き来し、その両方を基盤として生活し、さまざまなことを経験しながら成長していきます。日々の生活の中には変化や波があり、それまでの親子の歴史や現在の課題、保育のあり方などと複雑に絡み合っており、その育ちと課題はそれぞれに多様な表れ方をします。日々の保育実践の中で、このような子どもと家族にかかわり、親子の発達と適応を支援していくことは、今後ますます必要とされる保育者の専門性です。子どもと家族の支援にかかわる理論および技法について、子どもの発達や家族機能のアセスメント、相談支援、他機関との連携なども視野に入れながら、実践的に学びます。